



- ①よさを伸ばし合う子ども
- ②つながりを大切にする子ども
- ③自らとふるさを拓く子ども



テーマ「元気100%で挑戦☆笑顔あふれる 八森っ子！」

5月12日(日)、晴天の下、運動会が行われました。子どもたちの笑顔あふれる元気な姿がたくさん見られ、大成功の運動会でした。朝早くの会場づくりから、運動会終了後の後片付けまでご協力くださった保護者の皆様に心より感謝いたします。ありがとうございました。



国旗・町旗・校章旗を持って
5年生入場



6年女子2名に
よる聖火リレー



6年による選
手宣誓



「元気100%の応援de賞」を獲
得した青組



1・2年生によるダンシング玉入れ



3～6年綱引きは青組が熱戦を制す！



1年生もがんばりました！



最後まで白熱した
全員リレー



だ心
マー
一つ
スゲ
ーム
取り
組ん

START 校外学習

各学年で校外学習も始まっています。今週は、2年生と3年生が学区内におじゃましました。

2年

5月14日（火）、町内のニコットに野菜の苗を買いに出かけました。

1年では生活科の学習として、アサガオを育てましたが、2年では野菜の栽培活動を行います。

自分たちで育てる野菜を調べて決めました。一人一鉢として取り組むことで、自分の野菜を大切に育てたいという思いが高まります。

キュウリやピーマン、プチトマトや枝豆の苗を手にして、満足げな2年生。学校に戻ってきて、さっそく各自で鉢に植え替えていました。

栽培活動を通して、野菜は生命をもっていることや成長していることに気づき、大切に育ててほしいと思います。



3年

5月15日（水）、社会科地域探検で茂浦・中浜地区を徒歩で巡りました。

様々な施設や事業所、土地の様子などを見て、気付いたことを白地図に書き込みました。

この後の社会科の授業で、地図記号を使って、自分たちで地図を作成する予定です。

自分たちの住んでいる地域ですが、知っているようで知らないことも多くあり、地域を知るよい機会となったようです。



学校に新しい八峰町のポスターが貼られています。職員玄関を入った左側面には、岩に打ち付けた日本海の荒波を素材とした従来の写真ポスターが、右側面には、新たに令和2年度に作成されたイラスト調ポスターを教頭先生が貼つてくれました（同様のものは校長室にも）。

新しいポスターには、太陽に照らされた雄島と日本海の荒波、さらには、荒波にもまれ宙を舞うハタハタが描かれています。その他に駒踊りとキキヨウの花が描かれ、八峰町の風物が満載です。

まるで、葛飾北斎の代表作「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」を想起させる勢いのあるポスターです。

このポスターはコロナ禍もあり、あまり出回っていないとのこと。休み時間にじっくり見てほしいと思います。

今週の一枚



セットテープは、今となってはどこにいったものか見当が付きません。しかし、時折、テレビなどで当時の歌を耳にすると、気持ちが高ぶるのが分かります。それは、若者の感じる「エモさ」とは違う種類の「エモさ」ではありますが、同じ時代を共感できるのは嬉しいことです。

ここ数年、昭和レトロが若者に「エモい」と流行したとか。先日も若者の間でカセットテープを求める人が増えてきているというニュースを耳にしました。アナログ独特の柔らかな音質や見た目の新鮮さを多くの若者が支持しているそうです。

カセットテープ全盛期の私たち世代ですが、まさかデジタル全盛期に、再びカセットテープが注目を浴びると思ってもいませんでした。

私が初めて自分でカセットテープを買ったのは中学一年のとき。『オフコース』の「ベスト・ナウ」でした。初めて買ったカセットテープは宝物であり、毎日何度も聴いていた記憶があります。

特に、お気に入りの歌は、繰り返し聴きたいものです。カセットテープはそうはいきません。巻き戻しをしなければならぬのです。私の持っているラジカセには頭出し機能がなく、カウントーを見ながら頭出しをしていました。

今と比べると、何においても「手間」のかかる時代。時間や手間を掛けることが少ない現代の若者が昭和レトロを「エモい」と表現するのは、なぜなのでしょう。

ある人は、昭和の魅力を一言で表現するならば、「不完全の中の美しさ」だと言っています。

その捉えは、昔から「不完全さ」や「あいまいさ」を良しとし、そこに「美」を感じていた日本の伝統的な美意識（わび・さび）に通ずるような気がします。そう考えると、若者のレトロ回帰の現象も納得できそうです。

当時、あれだけ大切にしていたオフコースのカセットテープは、今となってはどこにいったものか見当が付きません。しかし、時折、テレビなどで当時の歌を耳にすると、気持ちが高ぶるのが分かります。それは、若者の感じる「エモさ」とは違う種類の「エモさ」ではありますが、同じ時代を共感できるのは嬉しいことです。

つぱさ

若者のレトロブームに思う

